

2024 年度 評価結果報告書



調布市立わかば学童クラブ

(学童クラブ)

株式会社日本生活介護

評価推進機構への報告

- | | | |
|----|-------------------|-------------------|
| 1. | 福祉サービス第三者評価結果報告書 | |
| 2. | 事業プロフィール | |
| 3. | 利用者調査 | ・ ・ ・ ・ ・ p 1～3 |
| 4. | 組織マネジメント | ・ ・ ・ ・ ・ p 5～13 |
| 5. | サービス分析 | ・ ・ ・ ・ ・ p 15～24 |
| 6. | 事業者が特に力を入れている取り組み | ・ ・ ・ ・ ・ p 25 |
| 7. | 全体の評価講評 | ・ ・ ・ ・ ・ p 26 |

評価推進機構への報告



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)基本的な生活習慣を身につけ、自分で考え行動する 2)集団生活の中で社会性を身につける 3)育成を通して様々なことを感じ、考え、それを自己表現する 4)安全・安心な学童クラブ運営 5)施設間の連携 6)中期経営計画の取り組み推進
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・利用者一人ひとりを大切に、安全・安心・快適に過ごすことができるよう、常に改善の意識を持ち、利用者から選ばれる施設運営を目指します。「利用者から選ばれる」東京かたばみ会 ・働く人一人ひとりが心に余裕をもち、働きやすい職場となるよう業務改善を進め、仲間を大切にする法人運営を目指します。「みんなが助け合う」東京かたばみ会 ・働く人一人ひとりの力を伸ばし、挑戦意欲を発揮できる職場となるよう、人材の育成・定着を図ります。「みんなが助け合う」東京かたばみ会 ・やがて土から芽を出し、きれいな花が咲くように、この5年間でしっかりと経営基盤の基礎を固め、持続可能な法人経営を目指します。「しっかり根を張る」東京かたばみ会 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・利用者の目線で考え実践できる職員になる。 ・確かな時代認識の上にたって新たな課題に道筋をつけ、責任を持って実行できる職員になる。 ・既存の習慣にとらわれることなく常に幅広い視点から柔軟に改革できる職員になる。 ・福祉の心を念頭にコスト意識をもって行動できる職員になる。

調査対象

登録児童全員とその保護者を対象とした。

調査方法

学童クラブからアンケート用紙を配布し、記入後は返信用封筒に入れ、直接評価機関へ返送していただくか、学童クラブに設置した回収BOXに投函し、学童クラブからまとめて評価機関へ返送していただくこととした。

利用者総数

89

共通評価項目による調査対象者数

89

0

89

共通評価項目による調査の有効回答者数

64

0

64

利用者総数に対する回答者割合(%)

71.9

0.0

71.9

利用者調査全体のコメント

調査対象者89名のうち、64名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの不満や要望は対応されているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、59名が「大変満足、満足」、1名が「どちらともいえない」、4名が「無回答」と回答している。また、「学童のおやつがおいしいです」「またお祭りをしたいです」「職員の誕生日会をしたいです」「遊び道具をふやしてほしいです」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	51	4	0	9
51名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「お化け屋敷が楽しいです」「新しいおもちゃを買ってくれます」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	51	3	3	7
51名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 また、「ケンカをしたときや話したいとき、相談に乗ってくれました」「嫌なとき、相談に乗ってくれます」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	52	6	3	3
52名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 また、「好きなおやつが出るから楽しい」「皆と一緒に食べられるから楽しい」「お誕生日会のおやつは豪華です」などのコメントがあがっている。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	39	6	9	10
39名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、9名が「いいえ」と回答している。 また、「意見を言うと、それも良いね、言って聞いてくれます」「知らないことを教えてください」「話し合いでは、順番に意見を言えます」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	50	8	1	5
50名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「きちんと教えてください」「わかりやすく伝えてくれます」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	15	8	12
29名が「はい」、15名が「どちらともいえない」、8名が「いいえ」と回答している。 また、「先生たちが掃除をしてくれています」「みんなで元の場所に戻しています」「片づけていない人もいます」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	55	3	0	6
55名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「きちんとしています」「優しい言葉で話してくれます」「職員は元気です」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	60	2	0	2
60名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「手当てをしてくれます」「すぐに助けてもらえます」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	54	7	1	2
54名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「間に入って話を聞いてくれます」「一人ひとりに話を聞いてくれます」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	59	3	0	2
59名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「一緒に遊んでくれます」「自分の気持ちに寄り添ってくれます」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	44	7	3	10
44名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 また、「大切なことを守ってくれます」「秘密にしてくれると思います」「言ったことはありません」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	55	2	1	6
55名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「助けてくれます」「先生は気持ちを受け止めてくれます」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	36	8	1	19
36名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「わかりやすく伝えてくれています」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	法人の基本理念や基本方針が職員全員に十分に周知と理解がされている 法人の単年度事業計画では、児童部門の基本方針や育成目標、運営の方向性を詳細に示している。この計画は各施設に配布されるとともに、理念については事業所マニュアルにも掲載し、職員が常に意識できるよう工夫している。また、新任職員には採用時の研修で理念や基本方針を学ぶ機会を設け、さらに年に2回の全体会議を通じて、その理解を深め、意識を共有している。今回実施した職員自己評価では、正・非常勤職員ともに理念や方針、年度の目標について十分な理解がされていることが確認できた。		
	各会議体を設け、決定事項等の周知の流れを整理して、共通認識を進めている 法人では、「安全・安心な学童クラブ運営」を重点事項として掲げ、リスクマネジメントへの取り組みと、子どもの権利擁護に向けた方針を定めている。これを実現するため、法人主導のもと定期的に施設長会議を開催し、計画の進捗状況を確認するとともに、各施設が抱える課題の解決に向けた議論を行っている。また、各施設の職員会議で挙がった意見や提案は、施設長会議において検討され、現場の状況理解を深めながら、共通の対策を講じることで、サービスの標準化や安全対策の向上につなげている。		
	職員全体で集まる機会を設け、円滑な事業運営に向けて取り組んでいる 学童クラブ全体会は、全正規職員を対象とし、各施設の職員が顔を合わせる場として開催されている。この会では、年度の業務における重点項目を共有するとともに、共通認識を深め、職員間のコミュニケーションを促進することで、協力関係の構築を目指している。また、年度の中頃には2回目の全体会を実施し、遊びをテーマに据えた交流の場を設けている。この会では、職員同士がチームを組み、交流試合などを通じて親睦を深めるとともに、子どもへの遊びの指導力やコミュニケーション能力の向上を図っている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 カテゴリー2		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目		
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
子どもや保護者、地域のニーズを常に把握した方針の決定をしている 定期的な利用者アンケートを実施し、その結果を分析することで、子どもや保護者のニーズを的確に把握している。事業所内の「何でもポスト」は子どもが自由に意見を発することができるうえ、その実現したことを子どもたちに共有している。また、市の事業者連絡会や学童クラブあり方検討委員会への参加を通じて、国・都・市の児童健全育成の方向性を踏まえながら、法人としての方針を定めている。さらに、この法人の方針に基づき、放課後児童部門の中期経営計画を策定し、職員全体で各業務を検討しながら、計画の達成に向けた取り組みを進めている。		
中期計画から各事業所の事業計画の重点項目が設定されている 法人の放課後児童部門が定める中期経営計画では、「各施設における子どものケガの発生を最小限に抑え、安全で安心な管理運営に努める」ことを重要なテーマとして掲げている。これを受け、単年度事業計画の学童クラブ全体の重点事項では、「安全・安心な学童クラブ運営」「施設間の連携」「中期経営計画の取り組み推進」の3点を柱とし、具体的な行動を示している。さらに、児童館や高齢者施設、自治会との連携やボランティアの協力を通じ、学童クラブの存在を地域に示し、地域住民と共に安全な地域づくりに取り組んでいる。		
法人の計画が職員に深く認知されており、各事業への理解が十分に進んでいる 今回実施した職員自己評価の結果から、法人の中期経営計画や事業所の単年度計画に対する職員の理解度が深いことが明らかになった。これは、学童クラブ全体会において、放課後児童部門の方針や事業所の重点事項を定期的に周知・確認していること、施設長の発信力の高さが要因と考えられる。今後は、有期契約職員やパートタイム職員に対して、朝礼や会議の際に、より詳細に計画の内容や進捗状況を伝えることで、強固な組織化を図る意向である。また、次世代のリーダー層の育成にも力を入れていく方針である。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評 日常的に子どもや保護者の意見や要望を聞き取り、苦情に至らない対応を心掛けている 経営層は、年2回の苦情解決第三者委員会議において、法人内の各事業に寄せられた苦情の内容、解決までの経緯、改善策を報告し、職員全体に周知を行っている。これまで放課後児童部門における苦情の実績はないが、他部門での事例を通じて、解決までの経緯を理解し、事前の防止策を講じることは、質の高いサービス提供において重要な取り組みと位置付けている。また、苦情の対象は子どもや保護者に限らず、地域からの意見も想定し、副校長や市の担当課と情報共有や解決に向けた取り組みを確認している。 定期的な権利擁護に向けた意識付けの取り組みが継続的に行われている 毎年12月の人権週間に合わせて、法人独自に作成した「子どもの人権擁護のためのセルフチェックシート」を各学童クラブ職員全員に実施し、その結果を統計として取りまとめている。このチェックシートは、日常業務や特定の場面での職員の行動を問う内容となっている。その結果は、各施設の会議や学童クラブ全体会において報告され、権利擁護意識の向上や啓発に活用されている。さらに、市の担当課からは、都や市で実施される権利擁護に関する研修の情報が提供されており、放課後児童部門からの指示や職員の希望に応じて、受講が進められている。 地域社会とのつながりを子どもと一緒に経験し、新たな連携や関わりを生み出している 法人は、市内に7つの学童クラブを運営している強みを活かし、各地域の特性を深く理解しながら連携体制の強化に努めている。市の健全育成推進地区委員会や地区協議会などと連携し、地域の行事(お祭りや運動会等)への参加や協力を行っている。また、協議会では、地域の防災担当となっており、年1回の防災訓練の企画をしている。加えて、近隣の学童クラブは防犯美化担当であることから、地域住民からの要請により、一緒に活動するなど、地域との関わりを深める取り組みを積極的に行っている。		

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			5/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
	評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
		4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリー4の講評			
市内の感染状況を十分に把握した上での、各施設の対策と注意喚起を行っている 事業計画において、「安全・安心な学童クラブ運営」を目標として掲げ、具体的な取り組みとして事故・ケガの防止、感染症予防対策、および避難訓練の実施を定めている。事故防止については、各学童クラブで発生したインシデントリポートを集約・分析し、活動場所の設定や見守り体制の見直しなど、改善策に反映させている。また、市内の感染状況を常に把握し、流行期には注意喚起を各施設に連絡し、事前に対策を行うことで感染症の予防に努めている。地域全体で防犯・防災意識が高いことから、今後は不審者対策訓練を充実させていく意向である。 施設の立地に応じた災害時の計画と体制が整備されている 付近を流れる入間川沿岸の浸水予想地域であることから、高台の地域へ避難する訓練を子どもと定期的に行っている。また、他の自然災害も想定し、年間で避難訓練を6回実施し、加えて業務アプリを活用したテストメール配信や災害伝言ダイヤルの使用訓練を毎月行っている。さらに、事業継続計画(BCP)における職員の役割について、非常勤職員には特定の役割を設けず、法人のバックアップのもとで行動することが定められている。これらの事項を職員マニュアルに集約し、職員がいつでも確認できるようにしている。 電子データの安全管理について、今後は更に取り組んでいきたいとしている 市の指導のもと、個人情報の取り扱いや管理方法が徹底されており、定期的な実地検査を受けて運用状況の確認が行われている。法人の規定に基づき、電子データや記録媒体の管理も厳密に行われている。例えば、子どもの写真データはオフラインPCで取り扱い、配信用データに加工する手順が定められており、安全な管理体制が整備されている。アプリを通じた配信も行える状況ではあるが、現在は紙媒体での通信を発行することで、ネットリテラシー対策をした上での保護者への情報提供が行われている。			

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当

サブカテゴリ-2 (5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3 / 3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
適切な職員配置における支援体制を確立し、各施設の特色を生かした活動をしている 市内の学童クラブ利用のニーズ増加を受け、法人では正規職員の採用を積極的に行っており、これは学童クラブや児童館、保育園などの児童部門の拡充に向けて、次世代の事業の担い手を育成することを目的としている。人員配置は支援単位に応じて適切に行われ、その活動内容に関しては施設長と職員が協力し、方針を定めている。ライフステージに合わせた就労環境を充実させていくため、20代の職員の早期育成に向けて、法人のキャリアアップ制度の見直しを図っていく意向である。 法人の方針や職員の意向を踏まえた研修受講を進めている 法人では、正規職員の勤続年数に応じた段階的な研修受講を計画的に進めており、子どもの育成支援に必要な研修については、正規・非常勤を問わず、職員会議などで共に実施し、知識を深めている。これまでの所内研修では、事故防止や緊急時対応を重視し、積極的に実施してきた経緯がある。施設長は法人の研修アドバイザーを担当していることから、職員のニーズを十分に理解し、現場に求められる研修内容と年間のスケジュール作成を行っている。 職員間の交流を通して、組織力の強化やサービスの標準化を図っている 年2回行われる学童クラブ全体会では、1回目に事業の目標・方針の確認や研修、重点事項の確認を行い、職員間での認識を統一している。2回目は、各施設の職員間のコミュニケーションの活性化や、育成支援の技術を共有し、楽しみながら行える場として開催している。この取り組みを通して、学童クラブでの業務やサービスの標準化を図り、異動時にも迅速に組織形成が行える体制を整えている。また、法人の児童部門の副主幹が在中していることから、法人の方針と現場の実践を常に検証できる場となっている。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)			
【課題・目標】 法人の中期計画にある4つの柱の実現にむけた事業評価を適正に行うこと。			
【取り組み】 外部コンサルタントを活用しながら、四半期ごとの見直しの際に進捗管理を行った。			
【取り組みの結果】 A・B・Cの三段階評価により、進捗状況を明確にし、適正な事業評価と課題の抽出を行うことが出来た。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 学童クラブの委託を受けた法人は、市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。その柱は、地域に根ざしたサービスの質の向上、人材の確保・育成・定着、業務の効率化・運営の標準化、新拠点の業務委託を円滑に行うという4つの目標で構成されている。各項目については、外部コンサルタントの助言を受けて、具体策を設定し、学童クラブが設置されている各地域に応じた単年度計画を作成している。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、必要に応じて修正を加えている。各目標に対しては、年次評価を3段階で定め、評価基準はA(計画以上に進捗が確認できた)、B(概ね計画通り)、C(進捗に遅れが見られ、改善が必要)となっており、次年度に向けた課題抽出を行っている。これらのプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、実行に移されている。			

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 安全・安心な学童クラブを実現するための事故防止対策を徹底する。	
【取り組み】 各学童クラブのヒヤリハット・事故報告の内容を分析し、各種マニュアルの改訂とその内容の周知を行う。	
【取り組みの結果】 児童引き渡しの手順の整理がされたことによる適正な子どもの引き渡し改善された事、受診につながる事故等の各施設の目標値を設定し、計7施設中6施設が目標を達成した。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 事業計画において、各施設の重点事項を明確にし、法人の目標である「安全・安心な学童クラブ」の実現に向けて取り組んでいる。特に、受診につながる事故防止と、児童引き渡し時の間違いをなくすことを目標に掲げている。事故防止に関しては、事故やヒヤリハット報告の内容を精査・分析し、その対策を全施設に周知した。また、適正な児童の引き渡しに関しては、使用アプリの使い方や手順を整理し、マニュアルの改訂と職員への周知を行った。この取り組みによって、事故報告や受診に繋がる事故発生件数は減少した。この取り組みは次年度も継続し、発生要因やその対応をさらに精査し、より安全な環境の提供と職員の育成支援に反映させていくこととしている。	

15

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
入会説明は個人面談を行い一人ひとりに理解してもらうよう丁寧に対応している 学童クラブ入会前には個別に入会説明会を行い、「入会のしおり」に沿って基本的ルールや重要事項等を説明している。入会前に保護者と面談することで、子どもの様子を共有することができ保護者の理解が深まり、子どもが安心して学童クラブでの生活を送れるよう工夫されている。おたより等に掲載する写真については写真使用確認書を取り交わしている。保護者から配慮すべき点、心配事などの意向を確認し、入会面談記録として記載し職員間で共有している。施設間移動があった際にも出来る限り困らないよう、近隣学童との連携や交流を行っている。 利用開始時に不安が軽減されるよう工夫され、退会後の過ごす場所も紹介している 入会初日には上級生と一緒に靴箱やロッカーを探したり、室内見学を行いその部屋のルールや使い方を教わるなど、子どもたちが学童クラブに慣れるための配慮がされている。おやつは最初1年生同士で座り、安心して食べられる工夫がされている。春休み中は友達との交流が持てるよう散歩や、遊べる工作を取り入れている。住宅街のため近隣への配慮も伝えている。保育園での見学や聞き取りを行い、入会前の生活を踏まえた支援を提供している。放課後子供教室や児童館など学童クラブ以外の過ごせる場所を伝えて退会後不安が軽減されるよう取り組まれている。 特に配慮が必要な子どもに対しては分かりやすい環境を整えて育成にあたっている 障害児や特に配慮が必要な子どもは入会前には保護者との面談を実施し、子どもの状況やニーズを詳しく把握している。ロッカーや下駄箱の位置はわかりやすく配置され、在籍中も場所が変わらないよう配慮されているため、子どもたちは安心して利用できている。子ども同士のトラブルや気持ちの行き違いがあった場合、静かにクールダウンできる場所を廊下のベンチや図書室、事務室など数か所用意され有効に活用されている。障害児や特に配慮が必要な児童には、職員が子どもたちの遊びの中に一緒に入り、見守りながら日常生活のサポートを行っている。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもの様子と課題について話し合い毎月の目標を決め子どもたちに伝えている 年間目標と毎月の目標は育成室の壁に貼られ子どもたちが見える場所に掲示されている。その月の目標は帰りの会で具体例を挙げ子どもたちに伝えられている。定期的なミーティングや日々の打合せを通じて、児童の様子や課題について継続的に話し合わせ、計画の見直しが行われている。障害や配慮が必要な子どもに対しては、発達の状況に合わせ次月の目標や支援の方法を話し合い障害児日誌に記録されている。保護者会でも育成支援の目標や計画について保護者の理解を得る努力がされており、おたよりでも毎月の生活と遊びについての目標が記載されている。		
「朝礼簿」や「子どもの様子ノート」で子どもの状況を把握し記録する仕組みがある 職員は毎朝の朝礼でその日のスケジュールや前日の子どもの怪我や病気など報告している。朝礼簿はその日の職員シフトや障害児対応職員、降室時のパトロール担当、学校の時間割、帰りの会で伝えることなど記載できるようになっており、1ページで必要事項が網羅できるように工夫されている。その他の子どもの様子は「子どもの様子ノート」に記載されている。障害児や発達面で配慮が必要な子どもについては、一人ひとりの状況や援助の内容を障害児、配慮児日誌に詳細に記録し育成日誌は市に提出している。		
すべての職員が子どもの状況を把握するよう打ち合わせで共有する仕組みがある 毎月の職員ミーティングでは子どもの様子や行事、施設長からの伝達事項など話し合われている。育成目標は達成度を確認し次月の目標を決めている。目標は生活と遊びに分けられ実情にあった目標となっている。朝礼の他に午後の打ち合わせがあり「朝礼簿」の確認を行っている。午後から出勤する職員とは伝達する時間が少ないが、出勤時に朝礼簿を確認し情報が共有されている。個々の子どもに対する理解を深めるため、研修等で得た情報を共有し、様々な事例を持ち寄り話し合う機会が設けられており、職員全員が子どもの成長を支える体制が整っている。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	☐ 非該当
サブカテゴリ-5の講評		
子どもや家庭のプライバシーに配慮し職員間で適切な対応となるよう注意を払っている 子どもに関する情報を外部とやりとりする場合には必ず保護者の同意を得ようとしており、入会時には写真掲載についての同意書も取得している。プライバシーに配慮し着替えが必要な時は誰でもトイレを使用している。一斉に着替える際には男女別に図書室を使い外から見えない工夫がされている。子どもたちにプライベートゾーンの話を行い、理解を深めるための紙に書いたものを掲示して注意を呼び掛けた。子どもの家庭状況は職員全員が把握し、プライバシー保護に細心の注意を払っている。児童が話したくないことは個別に聞くなどの対応も行っている。 子ども一人ひとりを尊重し会話を多く持ち、意見に耳を傾ける体制が整えられている 子ども一人ひとりを尊重し、それぞれの話に耳を傾け、喜びを共有し、褒めることを大切にしている。子どもが意見を出しやすい環境作りにも力を入れており、「なんでもボックス」という子どもの意見箱を設置して、子どもの要望や意見を積極的に受け入れている。職員は子どもたちとの会話を重要視しており、利用者アンケートでも多くの子どもが「職員は気持ちを聞いて大切にしてくれる」と回答している。保護者との個人面談を通じて話された内容や家庭の要望を職員間で共有し、子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した援助を行っている。 子ども間のトラブルが起きた場合は子どもの気持ちを汲み取り解決に導いている トラブルが起きた時は「かくにんカード」を使い状況を確認している。いつ、どこで、誰と誰が、何をしていた等や時系列の状況も記入でき、どうしたら良かったのかを一緒に考え、同じようなことが起きないようにしている。注意するだけでなく、双方の気持ちを理解し、解決に繋げるようにしている。子どもの様子がいつもと違う場合には職員がすぐに声かけを行い、子どもたちと話をするなど早期に対応している。保護者にもトラブルの状況をありのままに伝え、理解を求めている。個人に配慮しながら帰りの会などで全体にも話をして注意を促している。		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
マニュアルは全職員が分かる場所に配置され、業務の確認ができるようになっている 学童クラブでは安全管理、業務、緊急時の対応、保護者対応等のマニュアルを整備し、提供するサービスの基本事項や手順を明確にしている。マニュアルは全職員がすぐに確認できるよう場所を決めて置かれ、業務の確認が容易になっている。マニュアルは市や法人が作成したもの、各学童クラブで作成されたものがある。日常の育成、掃除、障害児への対応、アレルギー対応、怪我や事故の対応については記録され職員間で共有するようになっている。おやつの手順等はキッチンの見やすい場所に掲示され誰でもわかりやすいよう工夫されている。 職員は不明なことが起きた時マニュアルを活用し確認するよう取り組まれている 業務の標準化を図るために手引書を整備し全職員に周知している。職員はわからないことが起きた際や業務点検の手段として日常的に手引書を活用できる。また、休んだ職員にも前日の様子が分かるよう伝えられている。提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうかを定期的に点検・見直ししており、日々の活動に不具合があった場合は定期的に行われる法人の施設長会議などで確認を行っている。ヒヤリハットシートやアクシデントシートを他の系列学童クラブと共有し対応や対策について検討されている。 マニュアルや保護者に配る資料などは毎年見直しをしてより良いものに改訂している 年度末に新年度に向けて入会のしおりの内容を協議している。しおりは次年度に入会予定の家庭の状況を考慮し必要に応じて改訂が行われている。見直しにあたっては、職員や子どもの意見、保護者会や個人面談などからの意見や提案を積極的に反映するよう努めている。保護者アンケートの意見や要望等を確認精査し、改善に向けた取り組みが行われている。マニュアルに不都合があった場合は適宜見直しが行われている。事務マニュアルや連絡帳アプリ、児童の引き渡し時の対応など改訂が行われ、職員に周知しサービスの向上が図られている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	29/29															
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	評価項目1の講評 個人面談で、子ども一人ひとりの学童クラブや家庭の様子など保護者と情報共有している 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握するために保護者と面談するだけでなく、状況に応じて学校や保育園とも情報共有をおこなっている。個人面談を9月・10月に設定し、平日の午前中や夕方、土曜日などに実施している。面談では、学童クラブ内の様子、家庭の様子など保護者と情報共有している。希望者は在籍児の半数以上の世帯が希望参加している。また気になることがあれば、必要に応じて、この期間だけでなく面談の対応をしている。面談の結果は、面談記録に記載され保管され情報共有できるようにしている。 3年生の活動を通して子どもたちが互いに尊重し合いながら成長する姿が見られる 学童クラブでは、子どもたちが年齢や文化の違いを認め合い、協力しながら豊かな関係を築くことを支援している。班行動や行事では上級生が主体となり、下級生を思いやる姿勢が見られる。3年生は毎月の誕生会のおやつ決めや行事の企画を行い、会議は室内遊びの時間に実施している。各グループは8～9人で構成され、全体で10グループが活動している。自由時間には3年生が1年生に紙芝居を読み聞かせるなど、1年生から「3年生、上手」といった声が上ががり、3年生は憧れの存在となっており、上級生が下級生をサポートし、尊敬されている。 障害のある子どもや発達面で配慮が必要な子どもが共に成長できるよう援助している。 障害のある子どもや発達面で配慮が必要な子どもが他の子どもと共に成長できるよう援助している。職員は子どもたちを見守り、円滑な関係が築けるよう支援し、保護者とお迎え時や面談を通じて支援方法を共有し、家庭と学童クラブが協力して支援を行っている。学年が上がるに連れて、希望学童施設でなく他施設から移動して入会してくる児童もいる。学校が異なる児童は集団の中に馴染むまで時間がかかる。配慮が必要な子どもには個別対応を行い「みんなで一緒に過ごせるように」を目標に職員間で共有し、職員研修で学んだことをいかせるよう努力している。		
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当																	
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当																	
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当																	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																	
2	評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当	評価項目2の講評 子どもの自主性や自発性を尊重し、発達段階に応じた遊びと生活を提供している 子どもの自主性や自発性を尊重し、発達段階に応じた遊びと生活を提供するために工夫されている。幅広い遊びが用意され、工作では子どもたちの発達に合わせた取り組みが行われている。室内には一人遊びや複数人で遊べるおもちゃが揃い、異学年で遊ぶ場面も見られる。折り紙やお絵かきも自由に楽しめ、友だちと一緒に作品を作ったりもしている。身体を動かして遊びたい子どもには、校庭の遊具、サッカーやドッジボール、集団遊びなど校庭で思いっきり遊べる環境が整えられており、子どもたちの生活や遊びが豊かに展開されるよう援助している。 「何でもBOX(意見箱)」を設置し、子どもたちの声をきいている 子どもが集団活動に主体的に関われるように援助している。3年生以上の子どもたちは、それぞれ名前を付けた、おやつ(わかば製菓)、行事(わかば企画)、おもちゃ(わかば玩具)の係を担当している。「何でもBOX」という意見箱を設置しアンケート用紙に要望や意見を書き込んでいる。子どもたちは食べたいおやつや欲しいゲーム、マンガなどを記入し、学童クラブ生活に関する意見も書き込んでいる。職員は意見箱を確認し、意見を掲示板や帰りの会で発表している。一人ひとりの子どもの自主性が尊重され、豊かな生活と遊びの環境が整えられている。 子どもたちが日常生活に必要な習慣を身につけることができる環境が整っている 子どもたちが日常生活に必要な基本的な生活習慣を身につけるよう援助している。使用した物の片付けや決められた時間を守ることを促し、生活の流れを表にして掲示している。登室後は1日の流れを確認して自分のやりたいことを決め、上級生が集合時間や片付けを意識して行動することで、下級生も良い習慣を学んでいる。職員は学童クラブの約束ことの重要性を分かりやすく教え、廊下や室内に注意事項を掲示している。登退室時には静かに行動するよう指導し、子どもたちも約束を守って行動し、必要な習慣を身につけることができる環境を整えている。					
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当																	
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当																	
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当																	

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		☐ 非該当	
評価項目3の講評					
行事は、子どもたちの意見を募集し、自ら進んで行事に取り組めるよう工夫されている 子どもたちが興味を持ち、自ら進んで行事に取り組めるよう工夫されている。子どもたちの意見を募集し、係が話し合って内容を決定している。職員の行事の説明後、担当の子どもたちが自由に意見交換をしている。全員の意見を募集することあれば、係の意見を基に企画する場合もあり、話し合われた結果を行事企画書に記録している。「何でもBOX」で出た提案も話し合われている。3年生会議は別室で行われることもあり、下級生の憧れとなっている。学童クラブの行事に、子どもたちの自主性が尊重され、日常の活動に変化と潤いがもたらされている。 夏まつりでは、子どもたち全員から意見を募集し、係が話し合って内容を決めている 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動を作り上げる機会を設けている。昨年から始めた「何でもBOX」への投函が多く、アンケートから意見が採用された子どもたちは喜びの声を上げている。また、掲示板にアンケートを貼り出すことで他者の意見を知り、互いに尊重し合う機会を提供している。「おやつ」「行事」「おもちゃ」などのリクエストが多く、子どもたちにとって身近な意見箱となっている。特に夏まつりやお化け屋敷は人気があり、担当の3年生だけでなく、希望者による他学年の子どもたちもお手伝いをしながら、全員で楽しんでいる。 子どもたちが意欲的に行事に取り組めるよう保護者の理解と協力を得るようにしている 子どもたちが意欲的に行事に取り組めるよう工夫されている。行事の準備や実施にあたっては、保護者の理解と協力を得るために、業務アプリのお知らせ一斉配信や毎月のおたよりで周知している。行事にはできるだけ多くの子どもたちが参加できるよう、早めに日程を知らせ、各家庭でスケジュール調整ができるようにしている。保護者と情報共有することで、行事の準備が円滑に進み、協力が得られている。子どもたちが積極的に行事に参加し、日常の活動に変化と潤いをもたらしている。					
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている			評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		☐ 非該当	
評価項目4の講評					
ホワイトボードの予定を確認し、自分で学童クラブでの過ごし方を決めている 子どもの主体性を尊重し、見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している。共通する生活時間の区切りを設け、一日の予定をホワイトボードに記入し、行事予定を一月ごとに掲示している。子どもたちは登室後、業務アプリで出席確認し、クールダウンの時間を使って宿題や読書で静かに過ごしている。その前後にホワイトボードの予定を確認し、自分で学童クラブでの過ごし方を決めている。行事の予定表を掲示することで、季節の行事や遊びを楽しむことができる環境が整えられ、子どもたちの生活が楽しく、快適に展開されている。 テーブルやパーテーションで安全な活動環境を状況に応じて工夫している 子どもが安心して活動できるよう、室内環境を状況に応じて工夫している。育成室をパーテーションで区切り、遊びごとにテーブルを分けて使用したり、静かに過ごすための部屋を用意したりしている。行事の際には、在籍児童全員(90人)を対象とし、部屋を半分に仕切って行事に参加する子どもとおやつを食べる子と分かれて過ごしている。個別対応時にもパーテーションを使用し、図書室を会議室として10人ずつの話し合いに利用している。子どもたちがゆっくり静かに過ごせる場所を確保し、主体性を尊重した快適な生活環境を提供している。 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように援助している 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように援助し、職員が連携して見守りを行っている。職員の引率のもと、希望者を放課後子供教室に連れて行き、多い日には20人ほどが参加している。晴れた日には、学童クラブの利用人数が多いため、校庭での外遊びを楽しんでいる。また、放課後子供教室の出前「出張あそび」(※)として、学童クラブに担当職員が訪問し、工作や遊びを提供している。連携をとり、子どもたちの主体性を尊重し、楽しく快適な生活環境を提供している。					

5	評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている			評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている		☐ 非該当	
評価項目5の講評					
子どもの安全・安心な生活を支える為、学校と連携する仕組みが整えられている 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校との密な連携を図り、情報交換や情報共有を行っている。各学校の担任との情報共有の場を設け、必要に応じて随時連絡を取り合っている。年度当初には各学校に出向き、学年ごとの学童クラブ利用登録者を伝え、学校の年間計画予定表を受け取ることで、子どもが学童クラブでの生活が安定するよう配慮している。子どもが大きなケガをした場合には、学校と学童クラブの双方で情報共有を行い、養護教諭からも連絡が入る仕組みを整えており、子どもたちが安心して学童クラブでの生活を過ごせるよう支援している。 支援の必要な子どもの援助には関係機関(教育・福祉・医療機関等)と連携を取っている 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育関係、福祉関係、医療機関等)と連携を取って行っている。巡回指導を受け、子どもの理解方法やより適切な支援方法を学んでいる。全職員で共有し、日々の育成活動に反映している。養育関係で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、子ども家庭支援センターと連携をとり、必要に応じてケース会議に参加している。支援するにあたり、関係機関と情報共有していくことを保護者の同意をもらっている。 課題を抱える子どもたちに対し、子どもの気持ちに寄り添った援助を行っている 不登校や虐待など課題を抱える子どもたちに対し、子どもの気持ちに寄り添った援助を行っている。環境の多様化に伴い、職員間で日々のサインや家庭状況を鑑みた情報共有を徹底し、早期発見と対応に努めている。必要に応じて関係機関と連携し、家庭を含む包括的な支援を提供している。学童クラブでは、家庭や学校では話せないことを話することができる場を提供し、職員は丁寧な聞き取りを通じて子どもの気持ちに寄り添い、気になる内容は早めに学校と共有し、普段のコミュニケーションから子どもの変化やサインを見逃さないように努めている。					
6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している			評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している		☐ 非該当	
評価項目6の講評					
子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りをしている 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに細心の配慮を行っている。おやつを食べる班は固定され、子どもたちの関係性を考慮して定期的に班替えを実施している。受け入れ人数が多いため、おやつ時間は職員が手際よく準備している。3年生については登室が遅い日はすぐおやつの時間になる。班替えは子どもたちの状況を見ながら、4月と夏休み前に行っている。仲の良い友達とおやつを一緒に食べる自由席の日は、楽しみにしている。バイキングやお店屋さんごっこ形式を取り入れ、子どもたちが楽しむひと時となっている。 おやつ提供時間や内容・質量に工夫を凝らし、誕生会のおやつは、3年生が決めている 子どもの登室時間や夕食時の時間帯を考慮し、おやつ提供時間や内容・質量に工夫を凝らしている。おやつのカロリーは1日200キロカロリーを基準とし、味が偏らないように3～4品を提供し軽食に近いものも用意している。子どもたちは、おやつに対して関心が高く、そのことは利用者アンケートの結果からもわかる。「何でもBOX」意見箱には自分の好きなおやつをリクエストできる。毎月の誕生会のおやつは3年生がリクエストを話し合い決定している。初めて提供された「たこ焼」のメニューは大変盛り上がりその様子はおたよりでも報告されている。 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している。アレルギーのある児童は入会前に面談を行い、提供方法(持ち込み、除去品等)を文書で確認している。持ち込みのおやつでも保護者が気づかず除去成分が含まれる場合もあるので成分を確認している。提供のお皿は別色を使用し、職員から見える場所に座る場所も決めて対応を迅速に行えるようにしている。エビペンの所持もあり、すぐにロッカーが分かるようにしている。誕生会では保護者と連携し、アレルギー児童も同じような物が食べられるよう配慮している。					

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当									
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当																	
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当																	
	評価項目7の講評 感染症予防に努め、けがや体調不良時には速やかに職員に伝える体制を整えている 子どもたちが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している。年間を通じて手洗いの励行を促す声かけや掲示を定期的に行い、感染症予防に努めている。子どもの様子に目を配り体調の変化にいち早く気づけるよう留意し、けがや体調不良時には速やかに職員に伝える体制を整えている。日常的に危険な場所や行為についても指導し、けがや事故が発生した際には再発防止のために子どもたちが考える時間を設けている。性被害防止のために「身体の大事なところ」の話を行い、総合的に子どもの心身の健康維持をサポートしている。 医療的ケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携を基に適切な対応を行っている 医療的ケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携を基に適切な対応を行っている。職員は服薬や点眼などの医療行為を直接行わず、見守りや声かけを通じてサポートしている。今年度は医療ケアが必要な子どもはいないが、入会する場合は保護者と詳細な話し合いを行い、専門機関と相談しながら個別に対応を検討している。医療的ケアが必要な子どもも安心して学童クラブに通える体制が整っている。緊急時の対応マニュアルを作成し、全職員が対応できるよう、必要に応じて研修を行ったり、現場での対応訓練を行ったりしている。																		
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当																	
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当																	
	評価項目8の講評 保護者の家庭の状況や就労等に配慮し、保護者同士が交流できるよう支援している 保護者の個々の事情に応じた対応を心掛け、就労状況に応じて降室方法の変更や延長育成の対応を行っている。育成時間申請届や延長利用確認書を整備し延長料金などの手続きを保護者が分かりやすいようにしている。年に数回保護者会を開催し、保護者同士が交流できる機会を提供している。保護者会では普段の様子を知らせるため、子どもたちがいつも遊んでいるカードゲームなどを保護者同士で体験してもらい学童クラブの様子を身近に感じられるよう工夫している。延長育成においては、職員が常にそばにいて児童の不安を和らげるよう努めている。 保護者とは迎える時や保護者会、個人面談などにより信頼関係を深めている 毎日のお迎えの時に子どもの様子を伝えている。個人面談を定期的に行い、保護者と子どもの様子や発達の状況について共通認識を持つ努力をしている。児童の状況に合わせて随時面談も行っている。玄関には学童クラブの様子が分かる写真を月ごとに掲示するなど、保護者とのコミュニケーションのきっかけを提供し、保護者が学童クラブの活動をより深く理解できるよう工夫している。連絡帳アプリの導入により、保護者からの連絡事項が減少したが、保護者からの連絡があった場合には必ず返信を行い、職員から伝えたい事項は電話連絡を通じて伝えている。 子どもの安全を確保するため毎日の出欠席の確認や子どもの降室方法を明確にしている 連絡帳アプリを活用して子どもの出欠席や連絡事項を確認している。保護者は子どもが学校から帰ってくる前の時間にも連絡事項を伝えられるため事務の効率化が図られている。子どもがその日の降室方法が保護者の迎えなのか、5時の集団帰りの場合から不安な場合には、保護者に連絡を取り確認を行い、児童が安心できるよう配慮している。子どもが学童クラブを無断で欠席した場合の手順も明確に定めており、家庭からの連絡がない場合や学校に確認しても所在が不明な場合には、保護者に電話連絡を行い、さらに地域を探索するなど行われている。																		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子ともや大人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域資源を積極的に活用し子どもたちの生活が豊かになるよう支援している 近隣に公共の施設や大学があり、学童クラブではその施設や人材を有効に活用している。市立の資料記念館では年に3回の交流イベントがあり、展示物の見学や記念館の人物像について学ぶ機会がある。敷地は公園になっているため子どもたちが四季の変化を感じ、季節の花や落ち葉を使った工作や鯉のえさやり、謎解きウオークラリーを楽しむことができる。図書館からは司書が読み聞かせに来室して、子どもたちが本に親しむ機会を提供している。演劇部の学生からは体を使った表現活動のイベントがあり子どもたちの好奇心や探求心を刺激している。 近隣の高齢者施設と交流し子どもたちが多様な経験や交流ができる機会を提供している 近隣の高齢者施設との定期的な交流が行われている。以前から工作を持参して高齢者と交流していたが、感染症が落ち着いた現在では交流活動を再開している。子どもたちが施設に向き、活動の手伝いなど、子どもたちができる範囲のことを行い高齢者と交流を深めている。子どもたちは数人ずつ居室にも訪問し、自身の得意なこま回し等を披露するなど、高齢者に喜ばれている。高齢者施設のお祭りでも子どもたちが手伝いに参加し、子どもたちは高齢者施設に行くことを楽しみにしており積極的に参加している。高齢者との異世代交流の場が作られている。 地域の中の学童クラブを意識し、近隣の大人と関わりを持ち交流する機会を持っている 地域行事にも積極的に参加することで、地域の理解と協力も厚い。近隣の方々による庭の花壇の整備やハロウィン用のかぼちゃの寄贈がある。職場体験に来た中学生が自主的にイベントに参加し、子どもたちと交流を深める場面も見られ子どもたちと楽しんだ。夏の縁日では、児童館学童クラブと合同でゲームコーナーを出店し、児童館まつりでも1店舗担当し参加した。子どもたちと地域の防犯パトロールに参加してごみ拾いを行うなど、地域の子どものもととして活躍した。すべての職員がアンケートで地域との連携を深め、地域に根差した運営をしていると答えている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
タイトル①	中期経営計画の確実な目標達成に向けて取り組んでいる	
内容①	市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。外部コンサルタントの助言を受け、各地域に応じた単年度計画の作成と具体策の明確化を図り、確実な実行に向けて取り組んでいる。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、次年度に向けた課題抽出を実施している。このプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、確実な達成を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	毎月のおたよりは、日々の生活の様子や行事の子どもたちの様子が丁寧に伝えられている	
内容②	業務アプリのお知らせ一斉配信や毎月のおたよりによる周知は、行事の準備や実施に保護者の理解と協力を得るために工夫されている。子どもたちの生活と遊びの当月の目標、当月と次月の行事の予定が掲載され、子どもたちの様子が丁寧に伝えられている。前月の行事についても詳しく説明されており、写真や子どもたちの会話のやり取りが掲載されることで、より子どもたちの様子が伝わっている。楽しんでいる様子を保護者に届け、親子の会話や子どもたちの次の行事の意欲にも繋がっている。また、学校にも配布し、学童クラブの様子を伝えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	近隣の地域と連携し子どもたちが地域と関り、社会性が広がるよう援助している	
内容③	近隣の記念資料館、図書館、高齢者施設、児童館、農家、地域の方など多くの施設や人材と関わり、触れ合う機会が提供されている。子どもたちは地域の大人たちから大切にされ、見守られ、挨拶を交わしたり、気にかけてもらう経験を積むことで人間関係が豊かになり社会性が育っている。高齢者施設ではお習字の活動に参加して、高齢者に習字のお手本を渡したり、筆を洗うなど子どもたちでもできる手伝いをしている。ホームの居室で得意なことを披露することもよい経験となり、褒められたり、感謝されることで自己肯定感を高める支援が行われている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自治会や協議会との連携を通して、子どもと一緒に活動し、安全な地域社会づくりに取り組んでいる
	内容	事業計画から、防犯、災害対策といったリスクマネジメントにおける明確な方針と取り組みを定めており、法人の各施設へ実践的な取り組みを行うことを命じている。法人全体で年間の避難訓練や各種非常時に使用するツールの訓練を定期的に行っており、非常時の対策を万全なものとしている。また、地域の防災担当という役割を担い、地区協議会と連携した防災訓練の企画を行い、同法人の同事業所が担っている防犯美化の活動も一緒にするなど、地域との関わりを通じた安全な地域づくりを子どもと一緒にやっている。
2	タイトル	子どもの気持ちを深く汲み取る仕組みが整えられ、状況を振りかえることで「どうしたらよかったか」という自分の行動の見直しを導いている
	内容	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し子どもの意見に耳を傾け感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している。静かな場所で気持ちを落ち着かせて話ができるようになるまで職員が寄り添っている。子どもへの聞き取りは、施設オリジナルの「かくにんカード」(質問の項目は、ひらがな使用)を使用している。5W1Hの質問に沿って子どもが話すことで、気持ちを整理している。状況を一ずつ振りかえることで、「どうしたらよかったか」という自分の行動の見直しを導いている。確認カードは保存し職員で情報共有している。
3	タイトル	学童クラブでは法人の育成目標に基づき各学童クラブの目標を設定し、子どもたちが確認しながら成長発達するよう援助している
	内容	月間目標は子どもの状況や発達に応じ子どもの様子を話し合い、課題を出しながら決定される。育成室の壁には目標の推移が見えるように月ごとに掲示され、今月分は法人の育成目標とともに子どもたちの目線の位置に貼られている。生活面と遊びの目標があり「学童クラブの過ごし方を知ろう」「好きな遊びを見つけよう」など、子どもに分かりやすい言葉がひらがなで表記されている。子どもの成長や発達を子ども自身やすべての職員が実感できるよう配慮されている。法人の育成目標につながるよう月ごとや1年の振り返りにその成果が確認できている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい
	内容	法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。各学童クラブは主に法人本部の児童部門と施設長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネジメント力にも注視し、その育成方法についても検討されることに期待したい。
2	タイトル	食の広がりを子どもの提供するため、自治体とのおやつ予算の協議が行われることに期待したい
	内容	成長期の子どもたちに必要なエネルギーを提供するため、おやつが重要な役割を果たしているが、予算の関係で量を増やすことは難しく、現在の一人当たり月1500円の間食費では、物価高騰の影響で購入できる商品が限られている状況にある。誕生会などの特別な行事においても、予算内で購入できるおやつの選択肢が非常に少なく、職員の努力だけでは限界があるため、子どもたちにより多くの食の選択肢を提供し、健康的な成長を支えることができるように、間食費の増額について自治体との協議が行われることを期待したい。
3	タイトル	マニュアルの意義を確認や打ち合わせの時期の検討をして、さらなる安定したサービスの提供を目指すことに期待する
	内容	マニュアルの整備や標準化の取り組み等ができていると答える職員が多い中、マニュアルの閲覧できる場所の確保を希望する職員もいる。マニュアルの置き場所やマニュアルを読む時間の工夫が求められる。マニュアルは午後からの出勤する非常勤職員もいるため全員での読み合わせが難しい場合もあるが、例えば子どもの登室が遅い日などを確認する時間に充てるなどの工夫が望まれる。年間行事の打ち合わせをもう少し早めにしてほしいとの意見もあることからミーティングの時期の見直しにより職員全体が余裕をもって業務に取り組めるよう期待したい。